



2006年2月27日発行

No.17



We Love Suita Osaka

# みうらネット

発行元：大阪府議会議員  
三浦とし子事務所

吹田市泉町5-15-22  
田中ビル3階

TEL：06-6190-6877

FAX：06-6190-6511

## ごあいさつ

平成15年に初当選をさせていただき、早いもので  
3年が経過いたしました。

偏に皆さまのご支援があつてこそと

心より感謝申し上げます。

さらに今後、大阪・吹田が活力と魅力ある街に、  
そして、安全で誰もが暮らしやすい環境の良い街に  
していくために、「お一人お一人の声を大切に」

議員活動に、全力でがんばって参ります。

どうか今後とも皆さま方のご指導・ご支援を賜りますよう

心よりお願い申し上げます。



## 三浦とし子 府政相談事務所のご案内

平日 9:30~17:00 開設しています。  
どうぞお気軽に、お電話ください。



阪急千里線 豊津駅下車 徒歩1分

## プロフィール

平成15年

大阪府議会議員・吹田市選挙区で初当選

公明党大阪府本部女性局次長

所属委員会：環境農林常任委員会

趣味：歌舞伎鑑賞(上方好み)

映画鑑賞

食べ歩き(特に蕎麦)

心に残る一書：「峠」司馬遼太郎著

特技：車で何処にでも行ける。暗算

血液型：A型

性格：明るい

信条：誠実

家族構成：母と二人暮らし

## 三浦とし子のフォトレポート



### ●平成17年12月 石川県庁視察

3人以上のお子さんをお持ちのご家族を県内の協賛企業が支援するプレミアム・パスポート事業の説明を受ける。



### ●平成16年度 オープン 金沢21世紀美術館

1年間で150万人の入場者。伝統工芸の街に現代アート。個人の創造力を育む美術館。



### ●環境農林常任委員会の公明会派視察

環境情報センター（大阪市東成区中本）  
今、アスベストの検査、観察中。



### ●吹田支部連合女性局の「ひまわり隊」と。 女性の健康支援をテーマに遊説

大阪府、吹田市におけるマンモグラフィの導入実績や研修による読影医師や撮影技師の増員、受診率アップのため検診車（大阪府）の導入実績を訴えました。



### ●平成18年1月 JHFCパーク視察（横浜市）

〈水素・燃料電池実証プロジェクトのベース基地〉

地球にやさしい水素エネルギーで走る燃料電池自動車の前で。大阪府環境農林常任委員会視察。



### ●JR吹田駅北口で吹田市議員団と朝の街頭演説会

# 「千里ニュータウンが全国の再生モデルに！」 再生支援を知事に迫る！

三浦とし子議員は、12月の一般質問で、「救命救急にとって不可欠なシステム」として、ドクターヘリの導入に向けた取り組みを推進すべきなど、6項目にわたり質問しました。主な質問項目と答弁内容そして、18年度予算案や事業に反映された内容を記載します。

## 1. ドクターヘリの導入について

- ◆救命救急は時間との戦いです。例えば交通事故などで大量出血した患者の場合、30分経過してしまうと死亡率は50%にも達する。ドクターヘリを導入した病院では、重症患者の死亡率が27%改善し、重度後遺症が47%改善したという結果も出ている。救急車を補完し、救急速度を上げる事により救命率を向上させる「ドクターヘリ」の導入に向けた取り組みを推進すべき。

### 知事答弁

- ◆ドクターヘリは、災害時を含め、搬送に時間がかかる救命現場から直ちに救命医療を開始でき、救命率の向上が期待できるもの。今後、大阪のような大都市で、ドクターカーと比較し、救急患者の発生から治療まで時間が短縮できるのか、ヘリの常駐場所・着陸場所の確保の問題、消防機関や医療機関との連絡体制、近隣府県との連携などについて、関係者の意見を聞きながら議論し、研究していく。

### 18年度事業予算(案)

【新】ドクターヘリ調査検討事業 300万円

「ドクターヘリ調査検討委員会」を設置し、ドクターヘリ活用による救命効果の分析、近隣府県との連携体制等についてドクターヘリの有効性を検証。

## 2. 夜間青少年相談体制の整備

- ◆行き場を失った子どもたちの悩みを深刻に受け止め、15歳から20歳代前半くらいまでの幅広い年齢層の青少年を対象に、電話とメールで夜間においても対応できる効果的な相談体制を整備すべき。

### 生活文化部長答弁

- ◆家庭や地域において青少年が家族・友人関係や進路・就労問題など、多様な悩みを抱えていることは、お示しのとおり。本府においては青少年相談センターや子ども家庭センターの青少年相談コーナーを中心に、教育委員会、警察等の連携を図りながら全庁的に対応している。今後とも、青少年の多様な悩みの相談に、より一層きめ細かく対応するため、中高生以上の青少年が、夜間においても、電話やメールで気軽に相談できる青少年専用窓口の時間延長を図るほか、市町村との連携のあり方も含め、効果的な相談体制について具体的な検討を進めていきたい。

### メールでOK! 「青少年スタートライン」を設置

18年4月1日より開設

- 青少年専用相談電話  
(時間) 平日の16時から22時まで
- 青少年専用相談メール  
(時間) 24時間受付

## 3. 高校中退者の再チャレンジ支援窓口の設置

- ◆高校中退者の進路などの悩み、高校卒業認定試験を受けたい、単位制や定時制についてなどに継続的に相談に応じることのできる「高校中退者の再チャレンジ支援窓口」を、府教育センターに新たに設けるべき。

### 教育長答弁

- ◆高等学校においては、中途退学者を出さないように、きめ細かな指導や教育相談体制の充実に努めているが、せっかく入学しながら途中で退学する生徒が少なからずいることは、



残念なことであり、大きな課題である。中途退学する生徒が、再チャレンジしたいと考えたときには、学校へ相談するよう指導しているが、相談しづらいと感じる生徒がいることも事実。今後、「すこやか教育相談」などの相談体制の取り組みに加え、中途退学者の再チャレンジ支援に関する相談窓口を新たに設置すると共に、ホームページや府政だよりなどを活用し、広く周知していく。

### 学びたい!の声に 高校中退者の再チャレンジ 相談窓口を新設

18年度4月1日より、府教育センター(大阪市住吉区)に高校を中途退学した生徒の再入学や高校認定試験の受験などを支援する専用相談窓口が設置されます。

## 4. 千里ニュータウンの 再生支援について

◆今般、国土交通省に、ニュータウンのグランドデザインについての検討委員会が設置され、「計画開発住宅市街地の再生に向けての提言」が公表。府として今後どのような役割を果たして行こうと考えているのか。

### 知事答弁

◆現在の千里ニュータウンは、急激な少子高齢化が進むなど、多くの課題を抱えており、その再生は大阪府にとっても重要と考え、国にもその必要性を訴えてきた。今後、府としては、国から出された提言も踏まえ、地元市や公的事業者など連携して、「千里ニュータウンの再生に向けた考え方」を取りまとめ、都市再生のモデルとして、次世代に引き継げるように積極的に取り組んでいく。

### 続いての質問

◆①ニュータウンの府営住宅について、国の提言に沿った建

替え計画を策定すべき。

②府営住宅建替えに伴う余剰地の売却に当たっては、住民の意見を反映させつつ、ニュータウンのまちづくりに寄与する事業者をプロポーザルで選定する方式を導入すべき。

③府営住宅の余剰地については、隣接する土地と一体となった活用を考えるべき。

④「住まいと暮らしのマッチングシステム」を検討するなど、千里ニュータウンの世代循環を促すための若年層ファミリー対策を考えるべき。

### 建築都市部長答弁

◆「府営住宅ストック総合活用計画」において吹田市域の5団地について、平成22年までに建替え事業に着手する。国の検討委員会の提言に沿った建替えを行なうため、団地ごとの具体的な計画を策定していく。

余剰地の土地利用については、住民の意見を聴くためにも、まちづくりの協議の場を、市、府や関係機関の参画のもとに設置し、どのような用途の施設を誘致するかなど、市がまちづくり計画をまとめることが重要であると考えられるので、その際には、府も積極的に協力していく。

計画に沿って、住宅や施設を建設、運営などする事業者を、お示しのようなプロポーザル方式などで募集し、具体的な計画を提案してもらい、これを学識経験者などからなる選定委員会で審査する仕組みを平成19年度に佐竹台住宅で予定している事業で活用していく。

余剰地の一体活用については、同一住区の中で、府営、公社など複数の住宅が同時期に事業を行なう場合は、各事業者が共同で余剰地の利用計画を立案するなど、一体的に土地利用を考えていく。

計画策定を進めている佐竹台住宅などで余剰地を民間住宅用地として処分する際には、プロポーザル方式による事業者の選定に当たって、住宅の供給に関する計画を提出させ、その中で若年者も入居できるような住宅や、若年者が魅力を感じる設備・仕様の住宅の提案を求めるなど、幅広い世代が居住できるものとなるよう工夫していく。

戸建住宅地域では、高齢者世帯のニーズに合わせた住み替えの支援や、戸建住宅の活用による若年世帯などの居住の促進について、NPOの提案公募を実施するなど、様々な暮らしが提供できる取組みを進めていきたい。

【新】千里ニュータウンの再生に  
18年度予算案に14,500千円計上されました。